

令和4年度市内消費喚起商品券発行事業 実施結果

<目次>

1. 事業概要	・・・・・・・・・・	P1~2
2. 利用登録店舗について	・・・・・・・・・・	P2~4
3. 全店共通商品券及び飲食店限定商品券の換金方法等について	・・・	P4
4. 全店共通商品券の換金実績について	・・・・・・・・・・	P4~5
5. 飲食店限定商品券の換金実績について	・・・・・・・・・・	P5~6
6. 換金実績まとめ	・・・・・・・・・・	P6~7
7. 市民アンケート結果について	・・・・・・・・・・	P7~13
8. 登録事業者アンケート結果について	・・・・・・・・・・	P14~16

<資料>

○市民アンケート用紙

○登録事業者アンケート用紙

1. 事業概要

(1) 事業目的	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、停滞する市中経済からの回復を図るため、商店等において共通して使用できる全店共通商品券と飲食店限定商品券に、プレミアム分を上乘せしセット販売することにより、市内消費喚起と地域経済の活性化に資することを目的とする。
(2) 発行者	市と根室商工会議所で事業協定を締結し、根室商工会議所が発行
(3) 取扱方法	販売
(4) 内容	額面 500 円券×26 枚綴りで 13,000 円分の全店共通商品券及び額面 500 円券×4 枚綴りの 2,000 円分の飲食店限定商品券で構成された 15,000 円分の商品券を 10,000 円で販売し、市内の取扱登録店で利用可能とした。
(5) 発行総額	375,000,000 円 (3 億 7 千 5 百万円)
(6) 発行セット数	25,000 セット
(7) 発行枚数	750,000 枚 (全店共通商品券 650,000 枚、飲食店限定商品券 100,000 枚)
(8) プレミアム率	50%
(9) 購入対象者 (当初)	令和 4 年 6 月 15 日 (水) 現在 (基準日) に根室市に住民票を有する者 ※12,153 世帯 23,786 人が対象
(10) 購入限度数	(当初販売) 対象者 1 人につき 1 セット (再販売) 対象者 1 人につき 1 セット又は 2 セットの選択式
(11) 購入引換券	対象者の属する世帯の世帯主へ購入対象者分の購入引換券を特定記録郵便で郵送 (配布期間) 令和 4 年 8 月 1 日 (月) ~ 8 月 16 日 (火)
(12) 販売期間 (当初)	令和 4 年 8 月 1 日 (月) ~ 令和 4 年 10 月 21 日 (金)
(13) 利用期間	令和 4 年 8 月 1 日 (月) ~ 令和 5 年 1 月 31 日 (火)
(14) 利用可能店舗	・全店共通商品券 208 店舗 ・飲食店限定商品券 104 店舗 合計 312 店舗 (前回 316 店舗)
(13) 販売場所	市内郵便局 11 局 (根室・根室大正・根室有磯・根室西浜・根室平内・根室港・花咲・落石・厚床・歯舞・瑠璃瑠) ※簡易郵便局を除く (根室商工会議所と日本郵便株式会社北海道支社が契約締結)
(14) 販売時間	・根室郵便局 午前 9 時~午後 6 時 ・根室郵便局以外の 10 局 午前 9 時~午後 5 時 ※土日祝日を除く
(15) 販売方法	①購入引換券 ②購入冊数分の現金 (1 冊 1 万円) ③郵便局窓口へ来訪する方の身分証明書の 3 点を郵便局窓口を持参し、販売を行った。(代理購入も可能とした。)
(16) 販売実績	・当初販売 19,707 セット/25,000 セット (販売率 78.8%) ・再販売 5,293 セット/5,293 セット (販売率 100%) ・最終計 25,000 セット/25,000 セット (販売率 100%)

(17) 地域外販売	北海道プレミアム付商品券発行支援事業費補助金の交付を受けるため、 補助要件である地域外住民への販売を下記のとおり実施。 ①販売期間：令和4年8月15日～令和4年8月31日 ②販売場所：根室市観光インフォメーションセンター ③販売実績：84セット
(18) 再販売方法	当初販売の残数分5,293セットについては、応募・抽選方式とした。 ①申込対象者：根室市内在住者 ②セット数：1人1セット又は2セットの選択式 ③応募総数：市民9,380人（購入希望冊数17,948冊） ④応募倍率：3.39倍 ⑤抽選会：令和4年11月25日（金）午前10時30分 商工会館大ホール ⑥抽選方法：応募者情報を事前に表計算ソフトへ入力。 ランダム関数による無作為抽出方式とした。 ⑦当選者数：2,769人（5,293セット） ⑧販売期間：令和4年12月1日～12月16日までの平日 ⑨販売場所：市内4郵便局 （根室、根室大正、根室平内、根室有磯）

2. 利用登録店舗について

(1) 利用登録店舗数

312店舗（全店共通商品券208店舗、飲食店限定商品券104店舗）

※令和3年登録店舗数 316店舗（4店舗減 ※全てスックのうち1店舗閉店）

(2) 業種別登録店舗数及び構成率 ※【】内構成比率

① 小売業 159店舗 【50.9%】

No.	内訳	店舗数	構成比率	No.	内訳	店舗数	構成比率
1	酒・米・食料品小売	38	23.8	9	家電・事務機器・家具	7	4.4
2	燃料店・給油所	22	13.8	10	食肉・鮮魚・青果	6	3.7
3	その他小売店	17	10.6	11	海産物・土産品	6	3.7
4	薬・調剤・化粧品	14	8.8	12	時計・眼鏡・貴金属	4	2.5
5	菓子・パン・ケーキ	10	6.2	13	文具・書籍・印房	4	2.5
6	自動車・自転車・関連部品	10	6.2	14	履物・バッグ・スポーツ用品	3	1.8
7	衣料・呉服・寝具	8	5.0	15	写真・カメラ	2	1.2
8	生花・植木	7	4.4	16	贈答品・玩具	1	0.6

② サービス業 42店舗 【13.4%】

No.	内訳	店舗数	構成比率	No.	内訳	店舗数	構成比率
1	その他サービス業	14	33.3	3	美容室	9	21.4
2	クリーニング店	12	28.5	4	理容室	7	16.6

③ 旅客運送業（バス・タクシー） 5店舗 【1.6%】

④ 旅館業（ホテル・民宿） 2店舗 【0.6%】

⑤ 飲食サービス業 104店舗 【33.3%】

No.	内訳	店舗数	構成比率	No.	内訳	店舗数	構成比率
1	喫茶店・レストラン	29	27.8	4	ラーメン・そば	14	13.4
2	居酒屋・ビアホール	28	26.9	5	焼肉・しゃぶしゃぶ	7	6.7
3	スナック・バー	22	21.1	6	寿司	4	3.8

(3) 業種別利用実績

業種	登録店舗数	利用あり	利用なし
① 小売業	159	145	14
酒・米・食料品小売	38	37	1
燃料店・給油所	22	20	2
その他小売店	17	16	1
薬・調剤・化粧品	14	14	0
菓子・パン・ケーキ	10	10	0
自動車・自転車・関連部品	10	7	3
衣料・呉服・寝具	8	6	2
生花・植木	7	6	1
家電・事務機器・家具	7	4	3
食肉・鮮魚・青果	6	6	0
海産物・土産品	6	5	1
時計・眼鏡・貴金属	4	4	0
文具・書籍・印房	4	4	0
履物・バッグ・スポーツ用品	3	3	0
写真・カメラ	2	2	0
贈答品・玩具	1	1	0
② サービス業	42	34	8
その他サービス業	14	8	6
クリーニング店	12	12	0
美容室	9	8	1
理容室	7	6	1
③ 旅客運送業(バス・タクシー)	5	5	0
④ 旅館業(ホテル・民宿)	2	1	1
⑤ 飲食サービス業	104	85	19
喫茶店・レストラン	29	27	2
居酒屋・ビアホール	28	26	2
スナック・バー	22	8	14
ラーメン・そば	14	14	0
焼肉・しゃぶしゃぶ	7	6	1
寿司	4	4	0
合計	312	270	42

登録店舗 312 店舗のうち「利用あり」は 270 店舗、「利用なし」は 42 店舗となり、全体の 86.5%の登録店舗で商品券が利用された。なお、「利用なし」が多い業種は飲食サービス業の 19 店舗（うちスナック・バー14 店舗）、小売業が 14 店舗、サービス業が 8 店舗であった。

3. 全店共通商品券及び飲食店限定商品券の換金方法等について

(1) 換金方法

登録事業者は換金申出書に商品券を添えて商工会議所へ提出し、商工会議所は大地みらい信用金庫を通じて、各事業者指定の金融機関口座へ送金した。

(2) 換金申出期間

令和 4 年 8 月 1 日～令和 5 年 2 月 10 日

(3) 換金の頻度

事業者の資金繰り支援の観点から、月 3 回の換金頻度とした。

※換金手数料の事業者負担はなし

4. 全店共通商品券の換金実績について

(1) 全店共通商品券利用額（換金ベース）

324,559,500 円（令和 3 年度 324,381,000 円 +178,500 円）

(2) 全店共通商品券利用枚数（換金ベース）

649,119 枚（令和 3 年度 648,762 枚 +357 枚）

(3) 未利用枚数（未換金額）

販売枚数 650,000 枚 - 利用枚数 649,119 枚 = 881 枚（440,500 円）

(4) 全店共通商品券の利用率

99.86%（利用枚数÷販売枚数）（令和 3 年度 99.85% +0.01 ポイント）

(5) 全店共通商品券の業種別換金実績

業種	換金金額	構成率
① 小売業	309,101,000	95.2
酒・米・食料品小売	202,119,000	62.3
薬・調剤・化粧品	36,425,000	11.2
その他小売店	24,828,000	7.6
食肉・鮮魚・青果	11,599,500	3.6
燃料店・給油所	8,913,500	2.7
衣料・呉服・寝具	6,765,000	2.1
家電・事務機器・家具	5,445,000	1.7
菓子・パン・ケーキ	5,143,000	1.6
生花・植木	2,071,500	0.6
文具・書籍・印房	1,699,500	0.5
自動車・自転車・関連部品	1,247,500	0.4
時計・眼鏡・貴金属	1,133,000	0.3
履物・バッグ・スポーツ用品	809,000	0.2

写真・カメラ	504,500	0.2
海産物・土産品	356,500	0.1
贈答品・玩具	41,500	0.0
② サービス業	2,081,000	0.6
美容室	882,000	0.3
その他サービス業	594,000	0.2
理容室	336,500	0.1
クリーニング店	268,500	0.1
③ 旅客運送業(バス・タクシー)	796,500	0.2
④ 旅館業(ホテル・民宿)	75,000	0.0
⑤ 飲食サービス業	12,506,000	3.9
寿司	4,040,000	1.2
喫茶店・レストラン	2,724,500	0.8
居酒屋・ビアホール	2,066,000	0.6
ラーメン・そば	1,859,500	0.6
焼肉・しゃぶしゃぶ	1,724,500	0.5
スナック・バー	91,500	0.0
合計	324,559,500	100

(6) 全店共通商品券の利用傾向

小売業が全体の95.2%を占め、中でも「酒・米・食料品小売」が62.3%となり、普段の生活に欠かせない業態の利用が多かった。次いで飲食サービス業の利用が3.9%であった。

5. 飲食店限定商品券の換金実績について

(1) 飲食店限定商品券利用額 (換金ベース)

49,012,000円 (令和3年度 48,878,000円 +134,000円)

(2) 飲食店限定商品券利用枚数 (換金ベース)

98,024枚 (令和3年度 97,756枚 +268枚)

(3) 未利用枚数 (未換金額)

販売枚数 100,000枚 - 利用枚数 98,024枚 = 1,976枚 (988,000円)

(4) 飲食店限定商品券の利用率

98.02% (利用枚数÷販売枚数) (令和3年度 97.79% +0.23ポイント)

(5) 飲食店限定商品券の業種別換金実績

業種	換金金額	構成率
寿司	14,822,500	30.2
喫茶店・レストラン	13,814,000	28.1
ラーメン・そば	12,055,000	24.5
居酒屋・ビアホール	4,707,000	9.6
焼肉・しゃぶしゃぶ	3,508,000	7.1
スナック・バー	105,500	0.2
合計	49,012,000	100

(6) 飲食店限定商品券の利用傾向

前回に引き続き、テイクアウトや出前も使用可能としたことから僅かながら利用率があがった。業種別では「寿司」が30.2%、「喫茶店・レストラン」が28.1%、ついで「ラーメン・そば」が24.5%となっていた。

6. 換金実績まとめ

(1) 全店共通商品券及び飲食店限定商品券利用額 (換金ベース)

373,571,500円 (令和3年度 373,259,000円 + 312,500円)

(2) 未換金額

1,428,500円 (令和3年度 1,606,000円)

業種	全店共通商品券	飲食店限定商品券	合計	構成率
① 小売業	309,101,000		309,101,000	82.7
酒・米・食料品小売	202,119,000		202,119,000	54.1
薬・調剤・化粧品	36,425,000		36,425,000	9.8
その他小売店	24,828,000		24,828,000	6.6
食肉・鮮魚・青果	11,599,500		11,599,500	3.1
燃料店・給油所	8,913,500		8,913,500	2.4
衣料・呉服・寝具	6,765,000		6,765,000	1.8
家電・事務機器・家具	5,445,000		5,445,000	1.5
菓子・パン・ケーキ	5,143,000		5,143,000	1.4
生花・植木	2,071,500		2,071,500	0.6
文具・書籍・印房	1,699,500		1,699,500	0.5
自動車・自転車・関連部品	1,247,500		1,247,500	0.3
時計・眼鏡・貴金属	1,133,000		1,133,000	0.3
履物・バッグ・スポーツ用品	809,000		809,000	0.2
写真・カメラ	504,500		504,500	0.1
海産物・土産品	356,500		356,500	0.1
贈答品・玩具	41,500		41,500	0.0
② サービス業	2,081,000		2,081,000	0.6
美容室	882,000		882,000	0.2
その他サービス業	594,000		594,000	0.2
理容室	336,500		336,500	0.1
クリーニング店	268,500		268,500	0.1
③ 旅客運送業(バス・タクシー)	796,500		796,500	0.2
④ 旅館業(ホテル・民宿)	75,000		75,000	0.0
⑤ 飲食サービス業	12,506,000	49,012,000	61,518,000	16.5
寿司	4,040,000	14,822,500	18,862,500	5.0

喫茶店・レストラン	2,724,500	13,814,000	16,538,500	4.4
居酒屋・ビアホール	2,066,000	4,707,000	6,773,000	1.8
ラーメン・そば	1,859,500	12,055,000	13,914,500	3.7
焼肉・しゃぶしゃぶ	1,724,500	3,508,000	5,232,500	1.4
スナック・バー	91,500	105,500	197,000	0.1
合計	324,559,500	49,012,000	373,571,500	100

7. 市民アンケート結果について

(1) 実施概要

新型コロナウイルス感染症の影響により、停滞する市中経済からの回復を図るため実施した市内消費喚起商品券発行事業についての事業評価及び実施における課題等を調査するため、市民及び取扱事業所へのアンケート調査を行った。

(2) 調査対象

市民 1,000 人

〈抽出方法〉

令和 4 年 6 月 15 日（基準日：市内消費喚起商品券購入引換券配布対象者）において市民かつ、令和 5 年 1 月 1 日時点で根室市民であるもののリストを表計算ソフトで作成し、

ランダム関数を用いて 1,000 人を抽出

(3) 調査方法

郵送によるアンケート調査（返信用封筒）

(4) 調査期間

令和 5 年 1 月 13 日～2 月 15 日

(5) アンケート回収率

33.3%（1,000 件中 333 件回収）

(6) アンケート結果

〇はじめにあなたご自身のことについておたずねします。

<A-1 年齢>

回答が最も多かったのは「70 歳以上」で 143 件（42.9%）であり、次いで「60～69 歳」が 66 件（19.8%）、「50～59 歳」が 58 件（17.4%）と年齢層が高い方の回答が多かった。

<A-2 世帯人数>

最も多かったのは「2 人」で 149 件（44.7%）であり、次いで「1 人」が 96 件（28.8%）と 2 人以下世帯の回答が 7 割以上となった。

(A-1 年齢)

選択項目	人数	構成比
70歳以上	143	42.9%
60歳～69歳	66	19.8%
50歳～59歳	58	17.4%
40歳～49歳	34	10.2%
30歳～39歳	18	5.4%
20歳～29歳	14	4.2%
20歳未満	0	0.0%
合計	333	100.0%

(A-2 世帯人数)

選択項目	人数	構成比
2人	149	45.7%
1人	96	29.4%
3人	46	14.1%
4人	24	7.4%
5人	6	1.8%
6人以上	5	1.5%
無回答	7	-
合計	333	100.0%

問1 あなたは『プレミアム付商品券（以下、商品券）』を購入されましたか。

商品券を購入した方は312件（93.7%）、購入しなかった方は21件（6.3%）であった。

問2 商品券を何冊購入されましたか。（1冊1万円） ※再販売分も含む

最も多かったのは「2冊」で129件（38.7%）、次いで「1冊」が82件（24.6%）、「3冊」が45件（14.4%）であった。

購入冊数	人数	構成比
1冊	82	26.3%
2冊	129	41.3%
3冊	45	14.4%
4冊	34	10.9%
5冊	6	1.9%
6冊	10	3.2%
7冊	3	1.0%
8冊	2	0.6%
9冊	0	0.0%
10冊以上	1	0.3%
合計	312	100.0%

問3 商品券で、どのような買い物をしましたか。（複数選択式）

最も多かったのは「①普段利用しているお店で、普段購入しているものに使用した」が282件（56.1%）と全体の約半分を占め、次いで「⑤普段より一回あたりの購入（支払い）金額が増えた。」が62件（12.3%）、「②普段利用しているお店で、普段よりも高級なものやサービスに使用した。」が52件（10.3%）となり購買意欲が高まったことが伺える。

回答項目	人数	構成比
普段利用しているお店で、普段購入しているものに使用した。	282	56.1%
普段より一回あたりの購入（支払い）金額が増えた。	62	12.3%
普段利用しているお店で、普段よりも高級なものやサービスに使用した。	52	10.3%
今までに利用したことのないお店で使用した。	25	5.0%
今まで買えずにいた商品の購入や受けられなかったサービスに使用した。	24	4.8%
普段は利用しないお店で、普段よりも高級なものやサービスに使用した。	17	3.4%
普段は利用しないお店で、普段購入しているものに使用した。	14	2.8%
無回答	27	5.4%
合計	503	100.0%

問4 商品券を主に利用したのは、次のどのようなお店ですか。（複数選択式）

（全店共通商品券）

最も多かったのは「酒・米・食料品小売」が236人（26.8%）であり、次いで「食肉・鮮魚・青果」（24.2%）、「飲食店」（11.9%）となった。

(飲食店限定商品券)

最も多かったのは「寿司」が128件(31.9%)であり、次いで「ラーメン・そば」が122件(30.4%)、「喫茶店・レストラン」が103件(25.7%)であった。

(全店共通商品券)

No.	業種	人数	比率	No.	業種	人数	比率
1	酒・小売・食料品販売	236	26.8%	13	バス・タクシー	10	1.1%
2	食肉・鮮魚・青果	213	24.2%	14	贈答品・玩具	9	1.0%
3	飲食店	105	11.9%	15	美容室	8	0.9%
4	菓子・パン・ケーキ	90	10.2%	16	履物・バッグ・スポーツ用品	4	0.5%
5	クスリ・化粧品	52	5.9%	17	自動車・自転車・関連部品	4	0.5%
6	衣料・呉服・寝具	24	2.7%	18	クリーニング店	3	0.3%
7	家電・事務機器	24	2.7%	19	理容室	3	0.3%
8	海産物・土産品	23	2.6%	20	その他サービス業	2	0.2%
9	燃料店・給油所	21	2.4%	21	時計・メガネ・貴金属	1	0.1%
10	生花・植木	20	2.3%	22	写真・カメラ	0	0.0%
11	その他小売店	14	1.6%	23	ホテル・旅館・民宿	0	0.0%
12	文具・書籍・印房	13	1.5%	24	無回答	22	-
合計						901	100.0%

(飲食店限定商品券)

No.	業種	人数	構成比
1	寿司	128	31.9%
2	ラーメン・そば	122	30.4%
3	喫茶店・レストラン	103	25.7%
4	焼肉・しゃぶしゃぶ	26	6.5%
5	居酒屋・ビヤホール	21	5.2%
6	スナック、バー	1	0.2%
7	無回答	40	-
合計		441	100.0%

問5 商品券で購入した商品・サービス、飲食サービスのおおよその支払い金額(円単位を次の項目ごとに記載して下さい。)

※集計表記単位は(千円)

項目	最大値	合計値	平均値
普段の購入している商品・サービス、飲食サービスへの支払い(商品券での支払額)	90	5,373	16.1
普段の購入している商品・サービス、飲食サービスへの支払い(追加した現金等の支払額)	120	1,581	4.76
商品券がきっかけとなった買い物(商品券での支払額)	70	1,281	3.84
商品券がきっかけとなった買い物(追加した現金等の支払額)	250	865	2.59

問6 商品券を使用して購入した商品・サービス、飲食サービスのうち、もっとも高かった品名と金額をひとつお書き下さい。

※集計表記単位は（千円）

品名	最大値	平均値
電化製品（テレビ、電子レンジ、掃除機など） 灯油代、車検代、化粧品、飲食（寿司、焼肉）	270	7.21

問7 商品券を購入されなかった理由を教えてください。（複数選択式）

最も多かったのは「購入手続きに手間がかかる」の10件（30.3%）で、次いで「自分が普段利用しているお店がない」の6件（18.2%）、「販売額（1冊1万円）が高い」の4件（12.1%）であった。

選択項目	人数	構成比
購入手続きに手間がかかる	10	30.3%
自分が普段利用しているお店がない	6	18.2%
その他	6	18.2%
販売額（1冊1万円）が高い	4	12.1%
プレミアム率が低く、購入するメリットがない	3	9.1%
仕組みが良くわからない	2	6.1%
販売場所（郵便局）まで行けない（又は代理で購入してくれる人がいない）	2	6.1%
合計	33	100%

問8 最後に事業全体を通してご意見等があればご記入下さい。（自由記述）

※一部抜粋

・商品券を購入できる日を土日など休日でも購入できるようなサービスがあるとよい。もっと簡単に購入できたらいい、家族分の専用用紙がなくても希望冊数が購入できたらいい。4人家族なら4冊までではなく10冊購入できたら良い。そうすれば余ることなく追加で購入募集しなくでも良い。二度手間では。商品券がちぎりにくい。商品券1枚1枚が重なって使用してしまい損した。（一枚ずつ重なりすぎ）店員にきりとり線から切り離してといわれた。切り取り線からはずさないと言われ商品券に認められないのか。切り離すのが大変だ。

・プレミアムの金額が大きいので普段の買物より値段が高くても買えて良かったです。飲食サービス券はお世話になっている人に差し上げたり喜ばれ助かりました。

・根室市プレミアム商品券再抽選について、応募のあった世帯から選ばれていると思いますが、1回目のプレミアム商品券配布以降に子供が生まれた世帯から優先に配布してほしいです。タイミングによっては1日の差で配布してもらえない子供もいるので再抽選の際は新たに産まれた子供のことを考慮してもらえると助かります。

・私の場合すべて食料品に使用させていただきました有難うございました。外食はほとんどしてません。コロナ予防のためマスクをしてスーパーや買い物に。これからこ

のような機会がありましたら高齢者にハイヤーの回数券に使わせていただくと嬉しく思います。有難うございました。

・チャンスがあれば何度でも利用したい（ただし原資がある時）再選にはずれた時はがっかりしますよ。

・根室の町が元気になるようにいろいろな努力をしていかなければなりません、まずは「魚の街根室」になってほしいと願っています。

・新型コロナウイルス発生が確認されてから四年目を迎えました。その中に於かれまして根室市のプレミアム商品券の3度の発行・発売に際しましては担当部署の職員の方々は非常にご苦勞をされていることだろうと思います。一市民として大変感謝している次第であります。多人数の家庭ほどメリットがあり恩恵を受けていることでしょう。ただ発行に対する費用+五千円を考えると市の財政がひっ迫するのは避けられず、果たして費用対効果はどれほどなのか疑問も残ります。国の補助があるのかどうか判りませんが何れにしろ税金ですからね。市民も必要以上に買い物や食事をしなければ市中の業者さんの売り上げは伸びませんし、実際どの程度活性化されたのでしょうか。

・平日の昼間のみの販売となり、仕事の関係でなかなか買うことができませんでした。毎週とは言いませんが、1カ月に1回程度は土・日で買える日を設定していただくと助かります。また、販売金額についても1万円ではなく5千円程度もあるともう少し買う方が（買える方）が増えると思います。あと500円ではなく1000円単位の方がレジの混雑解消になるのではないかと考えています。次はないかもしれませんが。

・年金生活者には有りがたいです。この物価の値上がりする時、又年末を向えての買物等毎年年末近くに行ってくれると有りがたいです。

・全て生活費として使いました。助かりました。ありがとうございました。

・令和5年度以降は、新型コロナウイルスについては「5類」へ行こうと報道されていますが、根室市の経済を回すには次年度も実施してほしいと思います。

・根室市の経済低迷を考へての商品券の発行で、どの地域の市町村も同様の企画を行っているようです。が、期間が終われば、消費は変わらないと思いますし、諸物価の高騰が続く中、皆が生活苦に頭を抱えている状態でプレミアム商品券の発行は本当に役立っているのか疑問です。券には飲食店も含まれていてお年寄りの方は、あまり利用しないと思うし、外食も高くたった1度の食事ですってしてしまうこともあるので、飲食店の限定の件は無用だと思います。商品券発行にも沢山のコストがかかり、収益もわずかだと考へているので、消費拡大・低減を図るために、若い人の意見を取り入れたり、ほかの町で行っていることも参考にできるのではないのでしょうか。根室の産業も枯渇し、人口減でお年寄りしか住まない街になりつつある中、課の皆様の働きに期待しつつ感謝致します。

・物価高と年末で出費が増えるときだったのでプレミアム分で大変助かりました。追加募集で合計3冊購入させて頂きました。役所の封書や新聞・広報で広く知らせているのに読まない人、手続きができない人が不利になるのは残念です。たとえばバースディ月に割引になるハガキなどが送られてくることありますが、パッと目立って、そのハガキと引き換えになるような簡単な方法があるといいですね。

・1万~2万では購入するものが限られる。10kg米を3袋買って終わり。10万~20万くらいでまともなものが買える。あんなに経費かけて経済効果あったの？特定の店だけうるおったのでは？

・飲食店商品券を2,000円⇒3,000円に、1人1冊から⇒2冊までに

・目的通り市中経済の緩和や消費拡大につながった事業だと思います。今後もこのような事業があれば継続的に実施されれば、市中経済及び市民の家計にも大変良いと思

います。今後、物価の上昇が進んでいく中で、このような事業を実施されることにより、経済的にも負担減につながりますのでぜひとも引き続き実施をお願いいたします。

- ・年金生活なので少しでも買い物金額が増えるのは助かります。使ったのはほとんど食料品にです。たとえ3,000円分でもよぶんに使えるのはありがたいです。飲食店の方は使い勝手が悪いので（外食しない）個人的には不必要でした。1つ問題があるとしたら年寄りにはチケットが切りにくいので1枚ずつに離れている方が良いと思う。

- ・1世帯に1冊は少ないです。この物価高に不満を持っています。

- ・消費者にとってプラス5,000円はありがたい。が10,000円でも購入できない方がいます。もし、市民＜消費者の為ならば不公平なくいただける給付金の方がありがたいと思います。市中経済のこと、結局いつも言っている店で購入する。売り上げが低いお店の売り上げにつなげるならば別な方法も考えた方がいいと思います。（例）店舗によって割引率を変える（売り上げ状況に合わせて）など。

- ・生活費にあてて助かりました。住民税非課税世帯に配布された助成金よりプレミアム券の方が全世帯に平等で良かったと思います。

- ・販売場所が郵便局というのが行きにくい。郵便局は駐車場が少なく狭い。路上駐車はしたくない。コロナで飲食店にはいきたくない。

- ・買おうと思っていたら販売期間が終了していた。遅い時間まで販売してくれると良かった。土日祝日にも販売してくれると良かった。買い物してレジで券をちぎっている人を見たが、皆、ちぎりにくそうだったのでもし次回があるなら紙の質を変えたらどうか。それじゃなければお店にもっていくときはあらかじめちぎっておくといいよと文言をいれるのはどうか。レジが混んで迷惑したので参考にして下さい。

- ・台紙からの切り離しが少し不便。自分自身が飲食店で働いていて、来店された方が切り離すのに苦労している場面が何度もあった。コロナ禍のため、こちらが手伝うこともできず、指をなめて枚数を数える方もいて、とてもいやでした。

- ・経済的に余裕がなく購入しなかった。プレミアム率をつけた商品券を販売するのではなく、プレミアム率の分を無料で全世帯に送付すればよいのでは？中には1万円を出せない世帯もあるのでそちらの方が平等性が保たれるのではないのでしょうか。所詮余った商品券を抽選にして売りさばいても結局お金のある世帯が買うし、商品券はお釣りがないので逆に物を買すぎる傾向にあるの。

(6) 市民アンケートによる消費喚起効果について

市民アンケートの間5の回答から、「普段の買い物」、「商品券の入手がきっかけとなった買い物」の割合を算出し、換金総額をその割合で案分すること及び商品券事業に起因する追加現金支出の割合より、消費総額と消費喚起総額を推計した。

① 消費総額 (A+B+C+D) 473, 987, 520 円

●商品券使用分 (373, 571, 500 円)

A : 普段購入している商品・サービス、飲食サービスへの支払 (商品券使用分)

$$5, 373, 000 \text{ 円} \div 6, 654, 000 \text{ 円} = 80.75\%$$

$$373, 571, 500 \text{ 円} \times 80.75\% = 301, 658, 986 \text{ 円}$$

B : 商品券がきっかけとなった買い物 (商品券使用分)

$$1, 281, 000 \text{ 円} \div 6, 654, 000 \text{ 円} = 19.25\%$$

$$373, 571, 500 \text{ 円} \times 19.25\% = 71, 912, 514 \text{ 円}$$

●追加現金支出 (100, 416, 020 円)

C : 普段購入している商品・サービス、飲食サービスへの支払 (追加した現金等)

$$1, 581, 000 \text{ 円} \div 9, 100, 000 \text{ 円} = 17.37\%$$

$$373, 571, 500 \text{ 円} \times 17.37\% = 64, 889, 370 \text{ 円}$$

D : 商品券がきっかけとなった買い物 (追加した現金等)

$$865, 000 \text{ 円} \div 9, 100, 000 \text{ 円} = 9.51\%$$

$$373, 571, 500 \text{ 円} \times 9.51\% = 35, 526, 650 \text{ 円}$$

② 消費喚起総額 (B+C+D) 172, 328, 534 円

8. 登録事業者アンケート結果について

(1) 調査対象

登録事業者 264 事業所 (312 店舗)

(2) 調査方法

アンケート用紙配布による調査 (根室商工会議所が実施)

(4) 調査期間

令和5年1月13日～2月15日

(5) アンケート回収率

17.4% (264 事業所のうち 46 件回収)

(6) アンケート結果

○回答事業所 (業種別)

業種	件数	割合	業種	件数	割合
飲食店	17	36.96%	クリーニング店	1	2.17%
酒・小売・食料品販売	4	8.70%	理容室	1	2.17%
菓子・パン・ケーキ	4	8.70%	美容室	1	2.17%
クスリ・化粧品	3	6.52%	文具・書籍・印房	1	2.17%
履物・バッグ・スポーツ用品	2	4.35%	バス・タクシー	1	2.17%
家電・事務機器	2	4.35%	その他サービス業	1	2.17%
海産物・土産品	2	4.35%	写真・カメラ	0	0.00%
その他小売店	2	4.35%	贈答品・玩具	0	0.00%
食肉・鮮魚・青果	1	2.17%	時計・メガネ・貴金属	0	0.00%
燃料店・給油所	1	2.17%	ホテル・旅館・民宿	0	0.00%
生花・植木	1	2.17%	自動車・自転車・関連部品	0	0.00%
衣料・呉服・寝具	1	2.17%	合計	46	100%

(1) 根室市プレミアム付商品券 (以下、商品券) に対するお客様の反応についてお答え下さい。

「好評」が 27 件 (58.7%) であり、「わからない」が 19 件 (41.3%) であった。※「不評」は 0 件

(2) 今回の商品券事業の実施による店舗への効果についてお答え下さい。

「大いに効果があった」「やや効果があった」がともに 11 件 (23.91%) であり、「多少効果があった」9 件 (19.57%) となり全体の約 7 割が事業効果を感じる結果となった。

回答項目	件数	割合
大いに効果があった	11	23.91%
やや効果があった	11	23.91%
多少効果があった	9	19.57%
あまり効果はなかった	7	15.22%
特に変化なし	8	17.39%

(3) 実感した主な効果についてお答え下さい。

「客単価が増加した」が16件（44.44%）であり、次いで「来店客が増加した」が11件（30.56%）となった。

項目	件数	割合
客単価が増加した	16	44.44%
来店客が増加した	11	30.56%
売上が増加した	6	16.67%
その他	3	8.33%

（その他理由）

- ・商品の買い替えを決めた方が増えた。
- ・テイクアウトが増加
- ・今まで来たことのないお客様が増えた ほか

(4) 今回の商品券事業の実施時期についてどのように思いますか。

「適正である」が40件（97.56%）であり、「実施時期の検討をした方が良い」が1件（2.44%）（※）であった。

※イベントがなくお客様の外出が少ない2月がいいのではないかという意見

(5) 商品券を利用した販売促進活動などを行いましたか。（複数回答可）

「やっていない」が33件（70.21%）と最も多く、「商店街が企画するイベントへ参画した」が7件（14.89%）、「独自イベントをやった」が2件（4.26%）となった。

項目	件数	割合
やっていない	33	70.21%
商店街等が企画するイベントへ参画した	7	14.89%
その他	3	6.38%
独自イベントをやった	2	4.26%
チラシを作った	1	2.13%
おまけをつけた	1	2.13%
商品券利用者に対して割引を行った	0	0.00%

(6) 商品券事業による市内の消費喚起効果についてどのように思いますか。

「多少効果があった」が14件（32.56%）、次いで「やや効果があった」が11件（25.58%）、「大いに効果があった」が10件（23.26%）と全体の約8割が効果があったと実感している一方、「特に変化なし」「あまり効果はなかった」と感じる事業所が約2割となった。

項目	件数	割合
多少効果があった	14	32.56%
やや効果があった	11	25.58%
大いに効果があった	10	23.26%
特に変化なし	6	13.95%
あまり効果はなかった	2	4.65%

(7) 今後、同様の商品券事業を実施した場合、事業に参加しますか。

「参加する」は43件（100%）となった。（うち3件は未回答）

(8) 今回の商品券事業を通じてご意見等があればご記入下さい。

- ・タバコでも使えればいいとの意見があった。
- ・飲食店用のも共通で店で使えればいいのにという意見もありました。（外食はまだしないので。）
- ・大手・量販店に流れがちなので、零細・個人事業者の方にも特定の配慮があった方がいいと思う。
- ・市民にとってはいいことだと思います。ただ、長く続くコロナの影響で外食を避けている市民がどんどん増えています。感染を防ぐためには当然だと思います。しかし、飲食店を経営するものとしてこの事業で売上げに効果のあったお店とはコロナで売上げが減少していたお店でしょうか？観光客でいつも満席のお店ではないでしょうか？本当に苦しんでいる、売上げの減少しているお店のためというのであれば、助けられていないと感じました。
- ・換金の方法について、商品券は必ず商工会議所に持参しなければならないですか。平日の休みが月2日なので、平日の定休日に吹雪だったり、通院が重なったりすると持っていきません。（厚床なので）ギリギリ持って行けなかった時郵送でも良いですか？郵送不可能でしたら、今後不参加にしようかと思っています。
- ・毎年やってほしい。
- ・商品券の再販売のハガキを送ったが、『いつもあたっている人は、必ず決まっているんだな〜』って言っているお客様が多数いました。（そんなことはないと思うんですが、）そのお客様たちは、ハズレてしまっていたんだと思いますが。またプレミアム商品券の実施をお願いします。